



EMC NaviSphere のインストール

- [EMC NaviSphere のインストール, 1 ページ](#)

EMC NaviSphere のインストール

VNX と通信するため、Cisco UCS Director では、現在、Windows ベースの EMC NaviSphere がサポートされています。NaviSphere を使用する前に、セキュア シェル (SSH) サーバをインストールし、設定しておく必要があります。

Windows ベースの NaviSphere のインストールおよび設定

SSHD サーバを設定する場合は、Cygwin バージョン 1.7.27 をインストールし、ホストで SSH デーモンを使用することをお勧めします。Cygwin は Microsoft Windows 上で Linux と同様の環境を提供します。

Windows ベースの EMC NaviSphere に SSHD サーバをインストールした後で、システム変数の PATH 変数を変更し、NaviSphere の bin フォルダをこのパスに含めてください。これにより、ユーザが SSH を使用して Windows NaviSphere にアクセスし、VNX コマンドをただちに実行できるようになります。SSHD サーバをインストールおよび設定したら、新しいデフォルト パスを設定して、ユーザによってインストールされるソフトウェアがシステム ソフトウェアをオーバーライドできるようにする必要があります。

Cygwin パッケージのインストール

次の手順に従って、Cygwin バージョン 1.7.27 をダウンロードし、インストールします。

- ステップ 1** <http://www.cygwin.com/> から Cygwin 実行ファイルをダウンロードします。
- ステップ 2** パッケージ選択画面で Cygwin パッケージをインストールする際は、`openssh` パッケージと `openssl` パッケージを選択してインストールします。パッケージは、必ず Windows ベースのホストにインストールしてください。

SSHD サーバの設定

- ステップ 1** `C:\<Cygwin-Install-Dir>` ディレクトリに移動し、エディタを使用して `Cygwin.bat` を編集モードで開いて次の行を追加します：`set CYGWIN=binmode ntsec`
次に、前述の行を追加した `Cygwin.bat` ファイルの内容の例を示します。

```
@echo off
C:
chdir C:\<Cygwin-Install-Dir>\bin
set CYGWIN=binmode ntsec
bash --login -i
```

- ステップ 2** コマンドプロンプトで `C:\<Cygwin-Install-Dir>\Cygwin.bat` ファイルを実行して SSHD サービスを設定し、コマンド `$ ssh-host-config` を入力します。

a) 次の質問に回答します。

質問	推奨される回答
権限の分離を使用するの必要がありますか。 <yes/no>	yes を選択します。
新しいローカルアカウントは「sshd」ですか。 <yes/no>	yes を選択します。
サービスとして <code>sshd</code> をインストールしますか。 <yes/no>	すでに SSHD がサービスとしてインストールされている場合は no、そうでない場合は yes を選択します。
デーモンに対する CYGWIN の値を入力してください： [] binmode ntsec	値を binmode ntsec と入力します。
別の名前を使用しますか。 (yes/no)	yes を選択します。

質問	推奨される回答
新しいユーザ名を入力してください : <new-username>	新しいユーザ名を入力してください。
もう一度入力してください : <new-username>	新しいユーザ名を入力してください。
Cloupia を新しいユーザ名で置換しますか。 (yes/no)	yes を選択します。
パスワードを入力してください : <password>	このアカウントのパスワードを入力します。
もう一度入力してください : <password>	このアカウントのパスワードを再入力します。

システム環境変数の設定

- ステップ 1** [コンピュータ (Computer)] アイコンを右クリックして [プロパティ (Properties)] を選択します。
- ステップ 2** デスクトップにコンピュータのアイコンが表示されない場合は、次の手順を実行します。
- [スタート (Start)] ボタンをクリックします。
 - [スタート (Start)] メニューの [コンピュータ (Computer)] オプションを右クリックします。
 - [プロパティ (Properties)] を選択します。
- ステップ 3** [システムの詳細設定 (Advanced System Settings)] をクリックします。
- ステップ 4** [詳細設定 (Advanced)] タブで [環境変数 (Environment Variables)] を選択します。
- ステップ 5** [システム変数 (System Variables)] で [パス (Path)] 変数を選択し、末尾に次の 2 つのバイナリパスを追加します : c:\Program Files (x86)\EMC\Navisphere CLI;c:\<Cygwin-Install-Dir>\bin。
次の例を参照してください。
- ```
Variable Name: Path
Variable Value: <Existing Folders Path>;c:\Program Files(x86)\EMC\Navisphere CLI;c:\cygwin
64\bin
```
- ステップ 6** 新しい名前として [システム変数 (System Variable) ] に CYGWIN を追加し、[変数値 (Variable Value) ] に binmode tty ntsec を追加します。

## Cygwin SSHD サービスの開始

### 手順の詳細

|        | コマンドまたはアクション                                                                       | 目的 |
|--------|------------------------------------------------------------------------------------|----|
| ステップ 1 | [Windows サービス (Window Services) ] で Cygwin SSHD サービスを手動で開始して、起動時に自動的に開始するように設定します。 |    |

## SSH アクセスの検証

コマンドプロンプトで絶対パスを指定しなくても、`naviseccli` コマンドを実行できることを確認します。SSH クライアントを使用して SSH アクセスを検証できます。

**ステップ 1** SSH クライアントを実行している別のマシンにアクセスし、次のコマンドを実行します。  
`ssh<USERNAME>@<host-ipaddress> 'date'` または `ssh-l<USERNAME>@<host-ipaddress> 'date'`

例 :

たとえば、`ssh -l pjohn@host-ipaddress 'date'`

**ステップ 2** コマンドによってパスワードの指定を要求されます。  
 正しいパスワードを指定すると、コマンドは正確な日付を返します。

## Linux ベースの NaviSphere のインストールおよび設定

**ステップ 1** 特定のプラットフォームの EMC サポートから VNX の `naviseccli` パッケージを検索してダウンロードします。

次の例を参考にしてください。

`NaviCLI-Linux-64-x86-ja_JP-7.33.2.0.51-1.x86_64.rpm`

**ステップ 2** まだ切り替えていない場合は、`su [username]` を使用してルート ユーザに切り替えます。

**ステップ 3** `rpm` コマンドを使用して `naviseccli` パッケージをインストールします。

次の例を参考にしてください。

`rpm -i NaviCLI-Linux-64-x86-ja_JP-7.33.2.0.51-1.x86_64.rpm`

- ステップ 4** 証明書の確認レベルを入力するプロンプトが表示されます。確認レベルとして `medium[m]` を指定します。
- ステップ 5** `naviseccli bin` ディレクトリ (通常は `/opt/Navisphere/bin`) をシステムパスに追加します。たとえば、`~/.bash_profile` & `~/.bashrc` に次の行を追加してからこのファイルを実行し、`source ~/.bash_profile` または `source ~/.bashrc` を実行して設定を有効にします。
- ```
PATH=$PATH:/opt/Navisphere/bin
export PATH
```
- ステップ 6** 接続する各アレイの各ストレージプロセッサと連携するには、この `naviseccli` のインストールを設定する必要があります。エージェントがデータを収集するすべてのアレイのすべてのストレージプロセッサに対して、次のコマンドを実行します。
- ```
naviseccli -user username -password password -h sp_ip -scope 0 -np getagent
```
- ステップ 7** 。セキュリティプロンプトが表示されたら、証明書 (オプション 2) を保存します。
- ステップ 8** 使用するストレージプロセッサごとに必要に、応じてスクリプトを使用し、同じコマンドを実行します。セキュリティプロンプトが再度表示されることはありません。
- ステップ 9** SSH クライアントを使用して、「root」ユーザとして UCS Director にログインします。Naviseccli がインストールされている Navisphere ホストに対して次のコマンドを実行します。このステップは、UCS Director のアカウントとして VNX ストレージアレイを追加する前に実行する必要があります。
- ```
# ssh <navicli-user>@<navicli-host-ip> naviseccli -User sysadmin -Password <sysadmin-pass> -Scope 0 -Address <SP-A-IP> port -list
```
- ステップ 10** (SSH 証明書の承認後に) ログインプロンプトでパスワードを入力します。VNX ストレージアレイポート設定が一覧表示されます。証明書を保存するように最初に求められたら、オプション 2 を選択します。
- ステップ 11** ステップ 9 で表示されたものと同じコマンドを SP-B IP アドレスにも実行し、証明書を保存します。
-

